

# 一般社団法人口ボカップジュニア・ジャパン

## 2022年度第2回理事会議事録

1. 日 時 : 2022年2月23日(水) 10:00~12:00

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル ZoomにてWeb会議

### 3. 出席者

(1) 出席者 11名(うち委任状提出者1名)

大橋健、水野勝教、今井俊二、野村泰朗、中島晃芳、島谷太、森重智年、  
勝村航太、松山森仁、政岡恵太朗、田中宏明(監事)

欠席者 0名

(2) 理事以外出席者 3名

前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

### 4. 議 事

1. 今後の対応について
2. 議事録署名人の選定
3. その他

### 5. 資 料

資料1. RCJJサッカーオープン競技・オンラインサイト大会実施試算表

資料2. ジャパンオープン2022名古屋大会中止に対する代替オンラインサイト大会の提案

### 6. 議事概要

#### (1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

#### (2) 今後の対応について

①水野専務理事より、島谷理事が作成した資料1に基づき、WLサッカーオープンのみを開催した場合の試算について、説明がなされた。勝村理事より、これまでの大会では登録料の一部をRCJJの運営費としてきたが、島谷理事の試算では登録料全額が大会費用に充てられているのは何故かとの質問がなされた。これに対し水野専務理事より、自治体との主催ではなく、RCJJ単独で大会を実施するのであれば、RCJJの運営費を捻出するのは難しいとの回答がなされた。

②松山理事より、サッカー技術委員長吉本氏より提出された資料2に基づき、代替オンラインサイト大会の4案について、会場規模、会場費用、メリット、デメリット等の説明がなされた。

・水野専務理事より、名古屋大会中止直後に代替の大会を開催することについて、名古屋市との関係、今後ジャパンオープンを招致してくれる自治体との関係、RCJJという組織の維持継続、3年連続オンラインサイト大会が開催されないことによる、選手やスタッフのモチベーションの低下など複数の問題点があるとの意見がなされた。前田事務局長より、名古屋市との関係について、2023年度3月にジャパンオープンが名古屋市で予定されているため、本大会を延期すれば同じ年度に大会を2度することになるため、延期は出来なかつたことから、4月以降にRCJJ主体の大会を開催するのは問題がないのではないかとの意見がなされた。

③水野専務理事より、サッカーのみがオンラインサイト開催するプランについて、他競技の意見を求めた。森重理事より、レスキューでは世界大会の選抜は必須と考えており、昨年と同様に4月末にオンライン大会実施を検討しているが、条件次第ではオンラインも可能ではとの意見がなされた。勝村理事より、OnStageではスタッフ不足を懸念する声があるとの意見がなされた。中島理事より、OnStageの技術員の中には、オンライン大会開催に積極的な人もいるとの意見がなされた。

・野村理事より、参加者の信頼回復は重要課題であり、RCJJの存在意義は主に二つある。1点目は、実機のロボットを使ったオンラインサイト大会の開催、2点目は、メジャーと一緒に、ロボカップを広く知ってもらうことである。世界選抜は書類審査でも可能。オンラインの大会をコンパクトに運営できればいいのではないかとの意見がなされた。

・前田事務局長より、信頼を失うという意見について、コロナ禍の中、昨年はオンライン大会を開催し、世界選抜も実施しており、コロナなので仕方がないのではないか、本当に選手自身からそのような声があるのかとの質問がなされた。水野専務理事より、昨年のオンライン大会は準備期間が短くスタッフ不足もあり、出場チーム数が多いサッカーは審査が大変だったため、スタッフのモチ

ーションが下がっておりオンラインの開催を望む声があるとの意見がなされた。

④水野専務理事より、WLのみを実施する案を元にWL/NLを分散開催する可能性について意見を求めた。勝村理事より、スタッフや競技者の参加意欲が下がっていることから、小規模でもWL/NL両リーグで実施し、関東・関西で分散開催してはどうかとの意見がなされた。野村理事より、ロボカップの普及や参加者の意欲向上のためには、NLを優先して実施してはどうか、世界選抜だけが目的であれば、WLは書類審査で選出する方法があるとの意見がなされた。

⑤大橋代表理事より、オンラインかオンラインで実施するかの基本方針を決め、詳細については別途検討するよう提案がなされた。集めた参加費の範囲内で実施できるのであれば、オンラインで実施するという方向ではどうか。サッカーはオンライン大会の可能性はあるかとの問い合わせに対し、松山理事より、無いとの回答がなされた。中島理事より、オンラインもオンラインの開催は無いとの回答がなされた。森重理事より、実現できるのであればオンラインで実施したいが、オンラインで進めた方がスタッフの確保等の点も含めて現実的であるとの回答がなされた。水野専務理事より、WL/NLの分散解散への参加は可能かとの問い合わせに対し、かなり厳しいとの回答がなされた。水野専務理事より、サッカーはWL/NLの分散を希望するかとの問い合わせに対し、松山理事より、今年はまだWL/NLは別のコートを使うので分散開催は可能だが、スタッフの確保の点では同時開催が望ましいとの回答がなされた。

・野村理事より、オンライン開催を望むチームはあるかとの質問がなされ、松山理事より、まん延防止が発令される前から、学校としてオンラインの大会には出場できないチームがあるとの回答がなされた。これに対し政岡理事は、学校からではなく個人として出場する方法もあるので、あらゆる方法を模索すべきとの意見がなされた。野村理事より、持病を持っている参加者への考慮はしないのか、今年の世界大会のようにハイブリットな大会を検討してはどうかとの提案がなされた。

・水野専務理事より、本大会に限り参加費の見直しを検討してはどうかとの意見がなされ、会計担当理事と協議のうえ、別途検討することとなった。

・大橋代表理事より、同時開催を基に出来る限りコストを削減し、参加費の見直しをした上で、オンラインを開催する方向で進めることで承認がなされた。水野専務理事より、提案書には会場費以外の試算がないこと、シミュレーションが含まれていないことが指摘され、再度詳細な試算を提出するよう要望がなされ、松山理事が担当することとなった。

・野村理事より、延期した日程でまん延防止が発令された場合の開催判断基準について検討してはとの意見がなされた。前田事務局長より、現在でも制限付きでイベントは開催されており、まん延防止が発令されていても、実施することを前提にしてはどうか。しかし、開催都市の自治体から中止要請があった場合は、中止せざるを得ない。また、その場合の返金ポリシーについて別途検討する必要があるとの見解を述べた。

・前田事務局長より、理事の方々に対しRCJJのスポンサー獲得のお願いがなされた。田中監事より、スポンサーの獲得にあたり、スポンサー側のメリット、ランク等についての質問がなされた。前田事務局長より、ジャパンオープンの期間中は展示ブースの提供、HPにバナーを掲載すること、金額のランクについては見直しが必要であるため、後日連絡するとの回答がなされた。

・ジャパンオープンの学会賞については、引き続き学会から頂けるか事務局が確認することとなった。

・大橋代表理事より、オンラインを一部導入する案はあるかとの問い合わせに対し、水野専務理事より、予算的にネット回線を引くのは難しいとの意見がなされた。松山理事より、ロックの推薦を受けていない選手も参加できる、前回大会のようなオンライン交流会を設けてはどうかとの提案がなされた。

・中島理事より、オンライン大会の発表時期について質問がなされ、前田事務局長より名古屋市への説明が済んだ後、今月末頃までにHPに公式発表することで確認がなされた。

### (3) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、今井俊二氏、及び政岡恵太朗氏にお願いすることとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年2月23日

議長 大橋 健

議事録署名人 今井 俊二

同 政岡 恵太朗



今井

